

JASSで「宝満とまと」をPR



宝満とまと出荷組合は、福岡ライフエナジー(株)と共同で5日間、キャンペーンを行いました。

利用者に直売所や農産物をPRし、JASSや直売所にさらに足を運んでもらおうと企画したものです。

期間中、那珂川市のJASS-PORT安徳で1日100袋のトマトを配付。利用者は採れたての真っ赤に完熟した新鮮なトマトを笑顔で受け取りました。

JA営農生活部の担当職員は「農産物の魅力を知ってもらい、もっと直売所に来店していただくと嬉しいです」と話しました。

無人ヘリの水稻防除



稲刈りシーズンを前に、JA筑紫無人ヘリ防除作業部会が行う水稻の病害虫防除作業が始まりました。

2020年度水稻防除作業の依頼数は約1900件、面積は約254haを予定。出穂状況や病害虫の発生状況、天候などに十分注意しながら9月中旬まで作業を行います。

部会は、JA管内の組合員10名で構成。無人ヘリ2機による米・麦・大豆の病害虫防除活動に取り組んでいます。毎年7月下旬に事前検討会を行い、安全運行を心がけ、農薬を散布するヘリの高さや風向きに十分注意を払っています。

JA農産課の担当職員は「安全に気を付けて、組合員のために作業を行ってほしいです」と話しました。

模型でよみがえる首里城



7月中旬に新築オープンしたJA筑紫山田支店の入り口では、沖縄の世界遺産「首里城」を忠実に再現した模型が利用者を魅了しています。

この模型は、大野城市の組合員、梅野春幸さん（79）が制作。大きさは横1m25cm、奥行き112cm、高さ75cmで、手作りした約6000個のパーツを組み立て、約6か月かけて完成させた大作です。梅野さんは「本物に近づけるために福岡県立図書館から借りた本や、沖縄県から取り寄せた資料を参考にしました。特に一つひとつのパーツを赤く塗ったことや、シンボルの『龍』の彫刻が大変でした」と話します。

梅野さんは、長年営んできた工務店での知識と経験を生かし、これまで名古屋城や東寺の五重塔など9種類の建造物を制作。「昨年11月上旬に大野城まどかぴあで名古屋城を展示した時、見物客60名ほどから『10月31日に全焼した首里城を制作してほしい』という声をもらいました。その時に沖縄県民の誇りの首里城を、思いを込めて制作しようと決意しました」と振り返ります。

梅野さんの作品を見た利用者は「絵やパーツなど細かく再現されているので、思わず見入ってしまいます」と驚いていました。

梅野さんは「これからも多くの人に歴史的建造物を伝えるために、心を込めて模型を作っていきたいです」と意気込んでいました。

模型は、9月15日から約1か月間は福岡県立美術館に展示され、その後は沖縄県にて展示される予定です。

品質管理の徹底目指す



JA筑紫は8月下旬、筑紫野市のJA物流センターで2020年度カントリーエレベーター運営委員会を開きました。稼働を前に、搬入方法や品質事故防止などの注意事項を確認し、品質管理の徹底を目指します。

米麦情勢や生育状況の報告の他、20年産水稻乾燥・粃摺り計画など全6項目を協議。農事組合や生産部会の代表、行政代表、JA役職員が参加しました。

今年の水稲荷受け計画は、生重量で「夢つくし」484t、「元気つくし」814t、「ヒノヒカリ」724tの合計2022tを計画しています。

また、同日に那珂川市の那珂川支店で20年度ライスセンター運営委員会を開き、適切な運営管理を協議しました。

あま〜いブドウを味わって



JA筑紫管内の筑紫野市では、ブドウが出荷最盛期を迎えています。

今年は4月以降の気温が低く生育がやや停滞しましたが、5月以降は高温傾向で雨が少なかったため、玉張りが良く、十分に甘味が乗ったみずみずしい仕上がりととなりました。

JA筑紫ぶどう出荷組合の平山弘人さん(53)は、筑紫野市山家のブドウ園「紫水園」で、巨峰、種なし巨峰、ピオーネを約1ha栽培。7月25日からハウス栽培の巨峰を、8月25日からは雨よけ栽培の巨峰を出荷し始めました。

巨峰は9月15日まで出荷し、後半は10月20日まで種なし巨峰とピオーネを順次出荷する予定です。

平山さんは「雨にも負けず風にも負けず猛暑にも負けない、甘味があるブドウができました。多くの人に紫水園のブドウを美味しく食べてほしいです」と笑顔で話しました。

組合は2名の組合員で約1.4haのブドウを栽培。圃場巡回等を定期的に行い、高品質なブドウの出荷を目指しています。